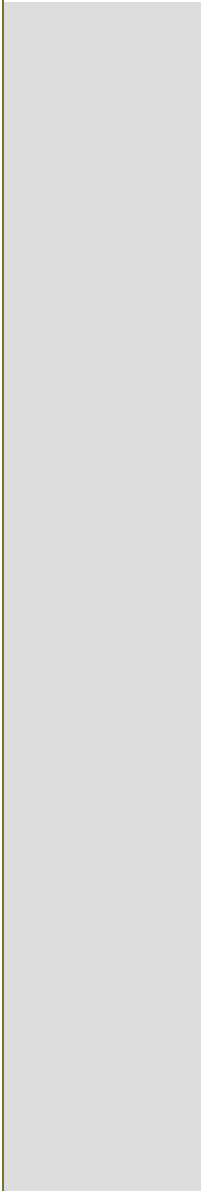




- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板



武士の家計簿

著者名	磯田道史	発行年	2003年
出版社名	新潮新書	ページ数	203ページ
値段	680円	ISBN	978-4106100055
コメント	埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。		

読者投稿欄

ペンネーム お勤め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
だいすけもん ☆☆☆	武士って、結構特殊な世界であることはわかった。 ただ、自分はあまり興味はもてなかった。			
	1-44	44P (40分)		2010/02/14 09:30:10
えむぼま ☆☆☆☆	武士の子供の通過儀礼のところが印象に残った。男の子と女の子で通過儀礼の差がかなりあることに驚いた。 男の子の場合、武士になるためにお金も面倒もかかるがだからこそ武士という存在は特別であるということを改めて思い知らされた。			
	1-126	127P (150分)	なし	2010/02/13 15:33:48
アメフト4号 ☆☆☆☆	江戸時代の下級武士の暮らし。 現代との比較がされていて最後まで楽しめた。			
	1-203	203P (150分)		2010/02/12 17:18:21
あ、あめふと2号 ☆☆☆	どうやら映画になるみたいです。 とても優秀な人なのに貧乏で苦労するのだが、何か愛嬌のある一家。 自分は絶対に家計簿をつけることはないだろうが、お金があったら映画も見たいです。			
	1-44	44P (30分)		2010/02/11 20:50:21
アメフト3号 ☆☆☆☆	昔の家計簿なんてそうそう無いんだろうなあと考えたが、案の定無いらしい。しかしマメな武士もいたわけで・・・。 ソロバン係は昔は蔑まれていたけど、身分制度の崩壊はソロバン係から始まったのか！など、おっ、と思う部分もあった。			

	15-44	30P (20分)	特になし	2010/02/11 00:16:46
とんぺい ☆☆☆	日本の身分制度を壊したのは数学だった！ というのは言い過ぎかもしれないけど、それに近いものが江戸時代から明治にかけてあった。これには正直びっくりしました。 こうゆう時代ものの本は初めて読んだけど、意外とすらすら進みました。つまんで読むのにいいかも。			
	1-103	104P (90分)	15-24	2010/02/05 01:21:46
M I A ! ☆☆☆	昔の暮らしの様子、14元服など通過儀礼が家計簿から見えてくるのは面白いと思いました。			
	1-38、107-118	49P (30分)		2010/01/27 23:43:26
ざわ ☆☆☆	第3章の武士の子どもに関してが一番興味深かったです。一番、自分に身近なテーマだったからかなと思います。今でもいろんな子どもの成長の儀式がありますが、武士の時代でもいろいろあるのだなと思いました。現在も江戸の武士の時代でも子どもは大事にされ、お金のかかる存在だなと思いました（笑）			
	3-176ページ	173P (180分)		2010/01/26 12:32:13
肉 ☆☆☆	使っている言葉というか、モノの名前とかは難しい印象を受けたけど、文章は抵抗無く読めたので、書き方がうまいっぽいです。 昔は儀式の盛大さがその家の威厳を示し、それは大切なことであった。 威厳を示す必要がない今でも結婚式や葬式を自分の収入以上に盛大にやる人たちは、同様に威厳を示したいのだろうか？ 不思議だ。			
	105-156	52P (50分)		2010/01/25 15:57:50
ムーディーかまやつ ☆☆☆☆	最初に読んでから6年経ちますが、読んだということは覚えていたし悪い印象もなかったので、ダメな本ではないでしょう。 江戸文化紹介系の文庫は当たり外れの少ない無難な選択肢です。旅のお供に迷ったら、そういうのを選びましょう。			
	全部	203P (120分)		2010/01/19 11:22:24
ねりな ☆☆☆☆☆	お金の話をすることで、義務教育科目としての日本史にありがちな曖昧さを消し去っており、そこが新鮮で痛快です。 情報量が多いのももちろん凄いです、さらに登場人物の性格まで読み取って描写されているので、意外と読みやすかったです。 映画になるみたいです。			
	15-126,179-218	152P (100分)		2010/01/18 00:52:34
まじ ☆☆☆☆	正確で長年に及ぶといえども、たかだか江戸時代の一武士の家計簿。 のはずなのにそこから江戸時代の武士の生活や幕末の動乱、さらには家計簿を記した猪山家の人柄までもが見えてくる。 歴史の面白さの一つを発見できた気がします。			
	1-44,129-176,217-218	94P (120分)	217-218	2010/01/07 22:31:47
iwatobi-penguin ☆☆☆☆	加賀藩を中心に会計の話がされていましたが、時間切れで全部を読み切れませんでした。あんまり家計簿っぽい話をしそうな雰囲気ありませんでした。			

	1-54	54P (40分)		2009/12/22 23:40:35
march ☆☆☆☆☆	読んだところのせいか、あまり家計簿的な話をしてなくて、想像とちがい、ちょっとがっかりした。ただ、猪山直之の活躍ぶりに感動した。こうして、幕末から明治初期にかけて土台から日本を築いた人もいるんだと再認識した。こんな人になりたい・・・。			
	127-156	29P (45分)	143	2009/12/19 14:39:55
thjam ☆☆☆	江戸時代の金銭感覚が分かった			
	1-203	203P (50分)		2009/12/11 02:28:42
ぷりぷり ☆☆☆☆☆	楮山家はそれほど低い身分の武士でないにもかかわらず、こんなに安い年俸で働いていたということに驚いた。普段自分が想像していた武士のイメージとはかけ離れた節約生活と金貸しとの交渉。今まで知らなかった武士のことがわかる面白い作品だった。			
	1-105	105P (60分)	49-66	2009/12/01 12:55:23
PO ☆☆☆	やはり武士は強いですね。			
	全部	203P (120分)		2009/12/01 00:06:33
日吉本町四丁目南 ☆☆☆	武家の女の人は、つつましやかに夫のためにいるかという、必ずしもそうではない。実は武士の中に離婚は山のようにある。自分のお小遣いはほとんどないのに、付き人にはちゃんとした給料を支払っているなど、想像とは違う武士の意外な側面が見られて面白いです。			
	3～104	102P (90分)	2 章	2009/11/17 01:29:56
TAKE2GU ☆☆☆	袴がかつて、苗字や刀よりも重要な身分のシンボルだったことに驚いた。江戸時代にも「お受験」があり、子供を塾に通わせ英才教育をするのは今と変わらないなあと思った。			
	107-126	19P (20分)		2009/11/12 08:27:08
くま ☆☆☆☆	やっぱ実用的な能力は強いです。生き残れる			
	オール	203P (180分)	とくになし	2009/11/10 18:04:28
Caporal ☆☆☆☆☆	武士には武士道と呼ばれるプライドがあり、その生活も裕福なのだろうと思っていた。 でも実際武士はほとんどがカツカツだったということに驚いた。そして貧困から抜け出した武士はしっかりと学力を身に着けた、おおよそ武士道から外れたものが成しえている。 そして武士は大雑把な生き物ではない、超几帳面なやつらだったということがわかるだろう。武士に対するイメージは誰でも変化するのではないだろうか。少なくとも私はそうである。			
	P1-213 (全部)	213P (120分)	P217-218	2009/10/20 16:53:25
アルフ ☆☆☆☆☆	家計簿から分かった（もちろん他の史料も参照しているが）武士の生活がリアルに描かれていてとてもおもしろい。武士の苦勞がよくわかります。 こんな詳細な家計簿を残した猪山家とそれを見つけ出した著者に感謝したい。			
	全部	203P (90分)	2 章	2009/10/19 17:04:09

びよ彦
☆☆☆☆

家計簿を通して当時の武家の生活・習慣などが解説されており興味深い。
高校時代、歴史の授業で「武士の困窮」が出てくる度、「支配階級なのに何故？」と思ったものだが、支配階級には支配階級なりの出費があり、必ずしも支配階級＝金持ちではないということがよくわかる。家財道具を殆ど売っ払ってもなお残る借金に、頻繁にあるうえに金のかかる儀式など、武士というのも楽な身分ではなかったようだ。

45 - 156	112P (90分)	76-87	2009/10/08 07:33:58
----------	------------	-------	---------------------

[TOP](#)へ



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

ついこの間あった昔

著者名	林 望	発行年	2007年
出版社名	弘文堂	ページ数	240ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4335800559
コメント	和服のおばあちゃんが茶の間で（！）新品の洗濯機のローラーを回して洗濯物をしぼっている。手前には夕餉のしたく。そんなレトロ写真に、そう言えば夏休みに洗濯の手伝いで衣類を「のしいか」にするのは、けっこう楽しかったっけ、と著者自身の思い出を重ねる。 ありきたりの写真解説ではなく、個人の記憶と重ね合わせることで、昭和の内ぶところに、より深く抱かれる。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ten ☆☆☆☆☆	日本人として心に染みついた感覚で「ああ、懐かしい」と思ってしまう、そんな写真。それに添えられた昔語りを読むのは、アルバムをめくりながら思い出を語らうような感覚にも近いものがあります。 それでいて一つ一つの話は日本文化の知識としては新鮮で、全く興味深い本であったと思います。			
	全部	240P (110分)	気に入った写真とトピックのところだけでも	2010/02/15 03:08:00
うろくた ☆☆☆	タイトルがなかなか秀逸だと思います。 思わず手にとってしまいたくなるタイトル。 こういうのを『粋』というのかな。 そんな粋な時代の写真と解説です。 個人的に特筆したいのはやっぱり混浴でしょう。 ちくしょーこの時代に生まれたかった 冗談はさておき、渋谷の写真とかも面白いです。この50年間で如何に緻密だったのかよくわかる。 さて、これは古き良き時代の写真集だが、ちょっとと良き時代であったことを強調しすぎているような気がする。 作者はなるべく中立の視点で書こうとしているようだが、なんとなく現代風刺の影が見え隠れするのは如何な物か。 こういう本は、単に昔の話を紹介するに留めて置くのがベストだと思う。そういうわけで☆3つ。 アマゾン風に。			
	色々	40P (15分)	混浴・渋谷	2010/02/15 01:50:20
	自分の生きている時代でもないのにとても懐かしく思えてしまいますのは何故でしょう？			

とんぺい ☆☆☆☆	Alwaysにできそうな風景から明治か大正かわからないようしゃしんまで。 羞恥とか混浴の話のところは考えさせられました。 現代の日本の性に対する考え方は戦後に形作られたんですね。			
	いろいろ	100P (90分)	気になる写真を	2010/02/10 13:31:14
jessy ☆☆☆☆	便利な時代に生きている私たちにとって、この本が表しているものは共感できる部分とそうでない部分から成り立っている。 罨を作るなんてなんて楽しそうなんだろう！！ でも、混浴は無理。			
	12-67	56P (45分)	どこでも	2010/01/27 09:26:18
黒鳥 ☆☆☆☆	私は本中の写真の数々に五感を刺激された気がする。 写真から多くの音を聞いたし、多くの色も見た（実際は気がしただけだが） 特に「臭い」は強烈で、白黒の写真から茶色の臭気が見えてきそうであった。 立ち読みポイントはその「臭い」系のところなのでぜひ読んでほしい。 とっても臭いよ。。			
	1-187	187P (120分)	156-171	2010/01/14 09:37:25
つきもち ☆☆☆☆	この時代にいたわけではないのに、なんか懐かしく感じます。 とくに家族だんらの風景や、子供たちが外で元気に遊んでいる風景は今となってはあまり見られない気がする。今の日本はいいのか悪いのかこういった本を読むとつくづく考えさせられます。			
	84-99,108-115,	22P (20分)	写真	2010/01/12 12:57:46
ぶるー ☆☆☆☆☆	私が知っている写真はカラーだから、白黒の写真ってなんだか興味をそられないんです。 そんなさざっと見がちな白黒写真をじっくり見るいい機会になりました。おばあちゃん軍団の写真とか、渋谷の写真とか、混浴のお風呂の写真とか写真を眺めて、解説を読んで、写真を眺めての繰り返し。 なかなか味わい深かったです！			
	p1-9、p 108-115、p 180-187	23P (30分)	目次から興味あるところを。	2009/12/15 02:16:04
日吉本町四丁目南 ☆☆☆	筆者の昔に思いを馳せたコメントがいくつも載っていますが、人間の心、特に小さな子どもの心は今でも変わっていないんじゃないかと思いました。でも15年前の子どもの心と今の子どもの心では違っているのかな・・・ 筆者が石川町に住んでいたということもあり、東工大周辺の40年前の雰囲気も伺えます。中原街道は真ん中半分だけ舗装されていて、脇は土のまま。そこに牛や馬が通って、糞をボトボト落としていたりとか（笑）			
	全部	240P (240分)		2009/12/08 00:53:44
puzdog ☆☆☆☆	文章を読んで「もう昔には戻れないな」と思うものも「また取り戻せるのではないか」と思うものもあった。社工の性？ すべてを懐かしいの一言で過去のものとして葬り去りたくない。 滅びかけた、またはもう滅びている古きよき日本文化を取り戻したいと感じた。 おばあちゃんのおはぎ、懐かしい。			

	100まで	100P (60分)		2009/11/16 20:34:21
ざわ ☆☆☆	一昔前の私たちの生活の写真を楽しませてもらいました。一昔前といってもほんの半世紀年であって、この私たちの周りの大きな変化に改めて驚きます。これから半世紀後、自分がお年寄りになったときのこの社会はどうなっているんだろうと考えてしまいました。			
	1-123ページ	123P (90分)		2009/11/03 16:15:28
びよ彦 ☆☆☆☆	古き良き時代とはよく聞くけど、こんな時代だったのかのかと驚かされた。渋谷は田舎で、都内に牛車がいたり町全体が貧乏くさく、これが四・五十年前の日本の姿とは、現代の感覚ではまず信じられないだろう。しかし逆に、この四・五十年の日本の成長がいかに異常なのかを実感した。			
	52-155	104P (60分)	108-115	2009/10/28 09:21:37
Whatever ☆☆	古き良き時代の日本の良さが、何だか心温まる写真と、筆者の思い入れ深いコメントに香りたってくる。けれども昭和と平成の狭間の世代である自分は、それに共感することはできなくて、少し遠くから眺めているような気持ちになる。時間があればもう少しじっくり読みたかった。			
	14-75	62P (60分)		2009/10/23 23:57:05

[TOP](#) 



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

トランクの中の日本

著者名	ジョー・オダネル	発行年	1995年
出版社名	小学館	ページ数	98ページ
値段	2,500円	ISBN	4-095630132
コメント	たぶん戦争体験って、こんなふうにしかな手渡してゆけないのかもしれない。 ハエが真っ黒にたかったりんご（90ページ）とか、アルミニウムのお盆（30ページ）とか、そして彼の代表作と称えられる96ページの少年……痛みなしでは受けとれない。 写真の重み、それが語るドラマの重みを受けとめつつ、並記されている英語のコメントにも目をとめてください。それもまた、ジョー自身が刻んでいったたいせつなメッセージだから。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ten ☆☆☆☆	戦争体験というのは聞くのも恐ろしいものですが、実際その風景の記録を写真で見えてしまうと、何も言えなくなってしまいます。戦争の悲惨さは、目をそむけてはならない、語り継がなければいけないものであり、その事実と責任にしっかりと向き合おうとする著者のコメントが胸に刺さります。			
	1-21、96-97	23P (20分)		2010/02/15 05:24:34
あ、あめふと2号 ☆☆☆☆	戦争の直後の写真集といったもの。被爆者の写真などは見た事がなかったが、なんとも言葉では表現できないよないたたまれない気持ちになった。戦争は絶対にいけないということを再認識させてくれる本。			
	1-107	107P (60分)		2010/02/14 14:48:12
#30 ☆☆☆☆	思わず目をそむけたくなる、目をそむけてはいけない現実。 改めて戦争の恐ろしさを実感させられ、これは風化させてはいけないと思わせる作品だった。			
	全部	98P (60分)		2010/02/14 09:41:46
TD ☆☆	原爆投下は戦争を終わらせることができたので結果としてよかったと米人が話しているのを聞き、落とした側はそんなことを考えているのかと驚いたことがあったが、この作者は重く受け止めていたようなので、こういう人もいるんだと思った。			
	1-115	114P (10分)	あとがき	2010/02/13 22:25:54
	広島平和記念公園には大学入ってから毎年行ってます。			

BLUE BLOOD ☆☆☆☆	こういう資料が、パブリックなものにされることはとても意味のあることだと思います。			
	全部	98P (30分)		2010/01/30 22:16:45
jessy ☆☆☆☆☆	少年が背筋を伸ばしてるところだけじゃなくて歯を食いしばってることにも気づいた時、なんだかどうしようもない気持ちになった・・・ もう起こったことは変えられない。。。だから語り継ごう。 阪神淡路大震災もこの間15年ということでドラマや特集が組まれていた。 みんな、見て下さい。			
	96-97	2P (10分)	立ってじゃなくてじっくり読んでほしい！	2010/01/28 10:38:15
びよ彦 ☆☆☆☆	「戦争で何もかも失くなった」みたいなことをよく聞くけど、それは比喻でも誇張でもないことを痛感した。特に原爆の爆心地だった長崎では、広大な土地のほとんどを瓦礫が埋め尽くしている。この写真を眺めると悲しさと虚しさがこみ上げてくる。			
	全部	98P (50分)	74-77	2010/01/25 14:41:23
くま ☆☆☆☆	戦争について、この本を眺めて考えてみるといいと思いました。 p97の写真は有名ですすし、この子どもの写真は何か訴えるものがありました。			
	p1-107	107P (30分)	p97	2010/01/17 16:42:49
黒鳥 ☆☆☆☆☆	戦争を体験していない我々世代は、どこか戦争と言うものを冷めた目で見る。どこか他人事で、興味を持たない。 様々なメディアから過去、そして現在も続く紛争について知るが、それらは客観的に批評がされ、時代背景などから「やむをえない戦争」と定義されている場合も多々ある。 「平和維持のための戦争の肯定」 この本はそのような考え方の過ちに気づかせてくれる本。 いくら言葉では肯定できても、その実態に目を向けたとき、この地獄を肯定することは絶対にできないのである。 お勧め度合いを星5つにしたのは、この本を読んでほしいから。そして今後も残って欲しいから。ハッと我に帰るような不思議な感覚が味わえるはず。 これは「読むべき、目を背けてはならない」本です。			
	10-113	103P (30分)	75- , 96-	2010/01/14 15:38:21
つきもち ☆☆☆☆	この本は重いです・・・ こんな鮮明な写真初めてです・・・ 原爆ってこんなすごい威力だったんだ・・・ 生き残った子どもたちはこんな悲惨な状態のなか過ごしたんだ・・・ こんなのに比べたら今のおれってちっちゃいな・・・ なんかがんばろう。 そう思いました。			
	全部	98P (60分)	写真をばらばらと	2009/12/16 00:52:55
Whatever ☆☆☆	事実が持つ圧力のようなものに目を閉じたくなくなりました。 戦争の面影さえも知らずに育ち、平和な時代を生きる私たちの視点はもはや、突然の命令で、被爆現場に立つことになった 米国人カメラマンのそれに共通した部分があるようにも思います。 そういった意味で、彼のコメントには注意して読んでほしいです。			



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

戦後日本経済史

著者名	野口悠紀雄	発行年	2008年
出版社名	新潮選書	ページ数	237ページ
値段	1,200円	ISBN	978-4106035968
コメント	サブプライムかまびすしい昨今、経済学を学ぶ際、具体的なトピックは、やはり意識しておきたい。石油ショックに土地バブル、「絵画は壁にかけた土地だ」った時代を経て、山一崩壊からライブドアへ。タイトルから予想されるモノモノしい概説ではなくて、むしろ経済界ウラバナシ集といった趣。週刊誌連載なのでトークも軽妙、どこからでも出入り自由。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ねりな ☆☆☆☆☆	戦時・戦後～今までの日本経済の本質が書かれた本で、こういった内幕ものはやはり読んで面白い。 よく戦後体制からの脱却なんて聞きくが、実はまだ戦後ですらなく、戦前の体制のままここまで来たこと、それが20年前から機能不全で、しかもまだそれに日本はすがっていることにゾットする。 読んでよかったと思えた本。			
	3-70,228-252	93P (120分)		2010/02/14 22:24:41
ぴよ彦 ☆☆☆	終戦を境に日本の政治は別物になったと考えられがちだけど、実際は戦前・戦時中の法・体制に根ざしている、ということだけは分かった。それ以外はよくわからない。戦後史・経済学に習熟しないと理解は難しいと思う。			
	1-81	81P (60分)		2009/12/08 15:46:03
くま ☆☆☆	ゆっくり読みたい本。併読してるからあんまり読めませんでした、また借りるかもしれません。			
	1-70	70P (90分)		2009/11/16 00:19:09
Caporal ☆☆	第二次世界大戦が終わり日本の経済は完全なる変化をしたと思われがちだが、実は戦時からの経済制度が生き残って現在までに至るというものだった。という経済史の見方を変えた本。 そのせいで高度経済成長の終わった今まるで社会主義のごとく存在する日本の経済制度はまるで労働者の意欲をそそるものではないような気がする。クラスの誰かに今の制度を変えてくれるような人ができることを期待したい。			
	P1-37,227-271	81P (60分)	P247-252	2009/10/20 17:00:53



図書一覧

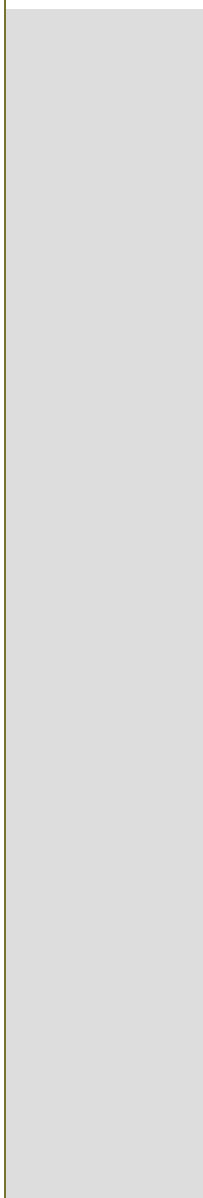
書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール
覧

自己プロフィール

掲示板



ぐるり一周34.5キロJR山手線の謎

著者名	松本典久	発行年	2009年
出版社名	実業之日本社	ページ数	208ページ
値段	762円	ISBN	4-408107738
コメント	もちろん山手線の中で読んでくださいね。 29駅一周物語。一駅ごとに一話ずつ、シンクロさせて読んでみるのも乙なもの。ゆったり座れる屋下がりがオススメです。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Got's ☆☆☆☆	やはり、「濫読!!」っといったらこの本のように各駅ごとのショートストーリーになっている本がやりやすいですね。山手線の駅ごとにその駅の欄を読み進もうと思ったんですけど、自分の読書ペースじゃあ追いつけなくて残念。 内容は自分の知らない事だらけで、ひたすら「へえ」と感心していました。でも、友達に内容をあまりひけらかすと勘違いされそうでちょっと怖い。 あ、Caporalさんのコメントのやつ、「ブラックアウト」ですよ。あれ大好きです。			
	品川、五反田、原宿、渋谷、恵比寿	20P (20分)	自分のよく使う駅	2010/02/14 23:58:33
くらしく ☆☆☆	よく使う渋谷～池袋間だけ読みました。 それだけでもそれなりに面白かったですが、当然全駅紹介しているのでボリュームが少ないです。自分は原宿の使われない謎のホーム、なんてものが解決されて良かったのですが、多くの人が既知かもしれません。 その程度のことしか載っていないのである程度山手線に詳しい人にはさした謎は載っていないさそうです。			
	128-165ページ	48P (30分)	137ページ	2010/02/14 18:42:27
#30 ☆☆☆	すごく身近な存在な駅だけあって、自分の使っている駅について書いてあるとちょっと嬉しくなった。 本当に立ち読み用って感じで軽く読める。			
	122-157	35P (30分)		2010/02/14 14:24:25
	山手線トリビアがちりばめられていて、結構ためになるなあ、へえ～と思いながら興味のあるところ			

Caporal ☆☆☆☆	ろをばらばらと見た。椎名林檎がある曲で 「山手線最終で何処へ行こうというの」 って言ってますが、大崎なんですね。なぜだかちょっとがっかり笑			
	二章まで	104P (50分)	色んなところをちょいちょいと	2010/02/14 03:13:09
とんぺい ☆☆☆	山手線に関するいろいろなうんちくを知れてまあま面白かったです。 けどなんか期待は越えてくれなかったって感じ。 まあ、自分の使ってる駅のうんちくや歴史を知るのにいい本ではないと。			
	全部	208P (100分)	自分の使ってる駅のとこ	2010/02/13 15:02:47
あ、あめふと2号 ☆☆☆☆	山手線のうんちく集といった感じ。 自分は中学生の時から山手線ユーザーで山手線ならどの駅にもそこそこの思い出があるという感じなので、読んでいて「へえ」と思わせる部分も多かったが、うんちくが好きじゃないとあまり面白くないかもしれない。			
	全部	208P (130分)		2010/02/11 14:02:03
TD ☆☆	自分の使っている駅のうんちくを読むのは面白かったが、どの話も特に落ちがあるわけではなかった ので眠くなってしまった。			
	106-165	59P (30分)	自分の使ってる駅のページ	2010/02/01 22:37:58
アメフト4号 ☆☆☆☆	東京で一人暮らしをするようになってたまに使うようになった山手線。面白いうんちくがあり楽しめた。			
	1-208	208P (120分)		2010/01/29 23:02:10
りょへ ☆☆☆☆	とりあえず山手線29駅物語だけ読みたいと思って読みました。 よく使う駅(渋谷、原宿、新宿、目黒etc.)の豆知識はある程度持っていたのでそんなに驚きませんでした が、代々木-新宿間の線路についてだとか、日暮里の北にある西日暮里だとか、あー確かにと思 える知識、いやトリビアをたくさん見つけました。 山手線を旅するなんて考えたことなかったけどやってみようかな。			
	105-222	118P (60分)	よく使う駅のところ	2010/01/21 23:41:45
アメフト3号 ☆☆☆☆	山手線の生まれから、各駅にまつわるエピソードが書いてあって、なかなか面白い。山手線ユーザーは結構いると思うので、自分がよく通る駅のページだけでも読んでみると案外面白い。 特に原宿、新宿は面白かった。			
	16-28、106-112、128-137	30P (20分)	特になし	2010/01/20 11:30:47
だいすけもん ☆☆☆	へえって感じです。 普段何の気もなしに利用している山手線ですが、これからは少し楽しみになりそうです。			
	1-64 122-133	76P (60分)	106-222	2010/01/19 11:08:16
harry ☆☆☆☆	なじみのある駅の部分だけ読んだが、 昔はそうだったのか〜不思議な気分になった。 街の発展というのはすごいスピードで進んでいるんだなと思った。			

	1～14、128～137	24P (10分)		2010/01/14 11:54:25
gpx ☆☆☆	降りて、散策したことのある駅だと、「ああ、あそこか～」と思いながら読むことができました。一番印象深かったのは、代々木と原宿の間にある変なホームの解説。今まで数年間ずっとなんなんだろうと思っていたけど、この本を読んですっきりしました。			
	全部	208P (240分)	105-222	2009/12/22 03:18:54
トム ☆☆☆	山手線は普段あまり乗ることはないが、それぞれの駅についての豆知識などは面白かった。今度友達と池袋で待ち合わせるときは、いけふくろう前にします。			
	全部	208P (120分)		2009/12/15 09:17:29
ぶるー ☆☆☆☆☆	もう山手線・京浜東北線を使って5年目の私としては、大体メジャーな駅は知ってます。知ってる駅を中心に読みましたが、ふむふむ、そうだったのか！と思うことが盛りだくさん。私は歴史より豆知識が面白くて好きでした。浜松町の小便小僧の謎も解けたし、スッキリ！笑			
	p52-64,p128-143,p193-p222	56P (60分)	好きな駅を！	2009/12/15 02:21:59
えむぼま ☆☆☆☆☆	山手線で一部読んでみたがひと駅ひと駅リンクさせて読むには結構速く読まなければいけないような気がする・・・。 いろいろな豆知識が楽しかったが、駅の話などを見ていると鉄道が震災後や戦後に発展していることから、日本にとって関東大震災や第二次世界大戦が逆に発展をもたらしていることに驚いた。			
	全部	208P (200分)	後半	2009/11/18 23:03:49
ソロコフ ☆☆☆	時間がなかったので目次を見て面白そうなところやよく使う駅のところを見ました。 この本で得た豆知識を知らない人に話してみたくまりました。			
	40-43,128-150,161-165,182-190,	40P (30分)		2009/11/10 10:17:18
trick ☆☆☆☆☆	田舎者で山手線に乗れないので自宅で「第3の男」とJR発車メロディ集を聞きながら読んでみた。 私はどうやら鉄分が高めの人だったようだ…昨年雑誌の企画で「自転車で山手線一周する！」とかやったからでしょうか。 とりあえずエビス買ってきます。			
	31-96 125-154 182-220	134P (120分)	31-39	2009/10/30 16:23:48
@ ☆☆☆	普段ほとんど山手線は使わない、東急線ヘビーユーザーです。 鶯谷とか知らないよ！(鶯谷の方すみません) 各駅の物語のところでは、一日の乗客数やランキングも載っていてわかりやすかったです。 確かに山手線はあの数走っていてほとんど事故起こさないですね。それにはやはり色々工夫されていますね！ 東急線も見習って下さい…			
	9-21、29-30、40-41、44-46、48-55、60-64、106-113、117-125、128-	120P (60分)		2009/10/28 21:07:57

	165、175-177、182-185、191-206、212-220			
Mikey ☆☆	別にオタクなわけじゃないけれど、「ああ、知ってる」と感じるところが多くて、あまり感動しなかった。			
	16-64,122-170ページ	96P (100分)	122-130ページ	2009/10/19 22:13:34
jessy ☆☆☆	授業で紹介された「実際に有楽町を見た！」というコメントに負けじと、自分も見てみました!!あ、でもあれは山手線じゃなくて京浜東北線に乗ってる時だったな…負けちゃったかな、、、			
	全て	208P (100分)	最後の章	2009/10/19 02:14:55
つきもち ☆☆☆☆	全部読む暇がありませんでしたが、最後の章は面白かったです。 山手線は何かと利用すると思うので、見たことあたり不思議に思ったりしたことが書かれていて誰でもすらすら読めるのでは。 これで自分も電車オタクになれたかなww			
	29,30,52-65,105-222ページ	120P (120分)	29,30ページ	2009/10/12 22:48:45
日吉本町四丁目南 ☆☆☆	残念ながら、山手線の中では読んでません・・・ 山手線命名100周年記念出版とあるだけ、山手線の歴史のことが多く書かれています。内容は結構ディープになっていて、詳しく知りたい人にはお薦めです。しかし、「鉄分」の多い人には多少物足りないかも・・・ またこの本で、東京という巨大都市が形成されていく過程を、山手線という側面から見ることができ、普段出来ないような経験をさせてもらいました。			
	全部	208P (180分)	作中に出てくるコラム (目次参照)	2009/10/12 01:15:59
フィクサー ☆☆☆	通学の時間に、自分の利用している駅のページをそこを通る時に合わせて読みました。面白い発見があると思います。自分は、有楽町駅のページに「2本のホームの端が前後にかなりずれているのだが・・・」とあり、そのすぐあとに有楽町駅に着いたので「あ、ほんとだ!」と楽しい気分を味わうことができました。また、「電車通はこの駅ではなくここで乗り換える」とか、「乗降者数がこの駅は何位である。」など、使えそうな(?)知識もあります。品川区にある目黒駅や品川区にない品川駅、そういったうちも面白いです。 自分の通学に利用している駅のほかに、ちらっと目次をみて気になった駅をチョイスして読むと楽しくていいと思います。			
	15-30ページ、106-113ページ、178-222ページ	69P (30分)	106-222ページの好きなところ	2009/10/08 00:27:15



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

藤森照信、素材の旅			
著者名	藤森照信	発行年	2009年
出版社名	新建築社	ページ数	247ページ
値段	2,400円	ISBN	978-4786902161
コメント	なんと本のタイトルにまで出しゃばっちゃう濃い個性の作者さん。 現場でも、おとなしく腕組みして観望しているわけもなく、「僕にもやらせて！」 屋根葺き用のコケラ板を割ったり、熱した竹を磨いたり、杉板のロケット噴射がおつ。なかでもいちばんアツいのは トンテンカンテン、真っ赤な鉄から和釘を打ち出す鍛冶屋さんでしょうか。本日の働き、釘4本ナリ。 モノづくりっていうよりも、モノそのものが、ほんとに好きなんだなあ。		

読者投稿欄				
ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
NIKI ☆☆☆☆	私の家の裏には竹林があるのだが、たくさん生えていても細く長いから、あまり圧迫感がなく、とてもさわやかな印象が強い。しかし、実際に建築の材料として使われていない、という事実が驚いた。油を抜かないと虫に食われたらぼろぼろになってしまうらしい。 101ページにのっているブルーノ・タウト設計の竹が使われている日向別邸は、私は結構素敵だと思うので、もっと竹を使った建築とか見てみたいと思った。			
	92－103	12P (10分)	101ページ	2010/02/15 04:10:08
ten ☆☆☆☆	藤森さんの建築は、本当にどれも興味深くて魅力的です。 この本を通じて、それらを魅力的たらしめている要素の一つを感じることができました。 自然素材にこだわり、その一つ一つをしっかりと理解して建築に用いるというのは、昔は当たり前のように行われていたであろうに、今つくられている多くの建築から抜け落ちている要素であるとおもいます。			
	全部	247P (150分)	薯B板	2010/02/15 03:17:30
黒鳥 ☆☆☆☆	あわあわ 時間がない！！ 《素材の旅 読み方講習》 そのいち ページをパラパラ そのにあつ！！この写真ちょっといい！ そのさんそこを読んでみよう			
	私はそれで「竹」と「鉄平石」に引っ掛かりました。 魚釣りの魚がオレで、釣り人が本。			

	本に釣られたページだけ読むのがこの本の読み方です（超個人的な）			
	47-57 93-103	22P (30分)	竹	2010/02/12 23:49:55
リリー・アリゾナ ☆☆☆	大理石の話が特に興味深かった。山から切り出されてきた生の石が均一なキューブになっていく過程はとてもわくわくした。			
	全部	247P (120分)		2010/01/29 22:22:58
ぷりぷり ☆☆☆☆	木造の家っていいなと思った。 建物の写真がとてもきれいで見惚れました。			
	1-169	169P (30分)		2010/01/22 17:06:51
つきもち ☆☆☆☆	ほんとにタイトルの通り、素材を旅する本です。でも聞いたことない素材が多く、結構勉強になりました。写真が付いているので、それぞれの素材の美しさが感じられました。			
	6-57	51P (70分)	どの素材もおすすめ	2010/01/06 01:59:32
march ☆☆☆☆☆	素材って生きていると思った。それぞれの素材に、個性がありそれをいかすことが大事！			
	1-247	247P (150分)	68ページ	2009/12/22 15:05:20
PO ☆☆☆☆	自然の素材って素敵ですね！			
	全部	247P (120分)		2009/12/01 00:15:19
puzdog ☆☆☆☆	素材や職人のやり取りの細かい描写から、著者の「野生あふれる素材」への愛情が伝わってくる。自分の目に留まった素材の記事から読んで、自然素材の美しさ、たくましさを感じてみてください。			
	1-115,142-155,198-225	150P (100分)		2009/10/28 01:47:44
ぶるー ☆☆☆☆	つち、いし、き、くさなどの自然。 鉄、コンクリートなどの科学技術。 今伸び盛りの科学技術と明らかに押され気味の自然。 藤森さんは「科学技術を自然で包む」ということを考えて、自然素材を知るために取材の旅へ。 それぞれの素材を作っている人への取材、体験を通して昔からある自然の素材の温かさとそれを今へと伝え続ける難しさを教えてくれる。			
	はじめに、竹、柿渋	30P (60分)	目次で好みのところを選ぶべし	2009/10/20 22:30:52

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

自然な建築

著者名	隈 研吾	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	208ページ
値段	700円	ISBN	4-004311607
コメント	こんくリーとをやっつけろ！スローガンに起こしたら、そんな感じかな。 でも、ありきたりの近代文明批判じゃなくて、有言実行、モノをつくってみせるところがカッコいい。 ごつい石に涼やかさを託し、もろい竹にたくましさを担わせ。うーむうーむと現場の苦心を共有するうちに、いつしかクマさんのプロジェクトの一員になって、一緒に無い知恵をしぼっている。現在進行形の熱気がいいね。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ten ☆☆☆☆☆	ラジカルに考え、直感に訴える。建築家のあるべき姿だと思う。 個々のプロジェクトについては氏が以前、東工大を訪れて行った講演会で紹介していた事例をいくらか詳細に記述しているものが多かったで、当時の講演会で自分が考えたこと、氏が話していたことを思い出しつつ、自然を用いるだけではない「自然な建築」について、改めて考えることができた。			
	全部	208P (120分)	全編。時間が無ければ 序章・終章	2010/02/15 03:26:59
Mikey ☆☆☆	専門的な用語はよくわかんないです。 工業製品のようにどこでも同じものが手に入る状態が求められるのではなく、その土地とマッチしたものをつくらなきゃいけないのが建築の面白いところですね。 時空間の人がトライするのもそういうものなのかなって思いました。			
	115-141	27P (15分)	ブティの話のところ	2010/02/15 01:40:04
NIKI ☆☆☆☆	コンクリートってやっぱり最近の新しい建築という感じがするし、デザインも新しいけど確かに自然ではない。でも自然という定義自体難しいなあと思った。 水の家で、家の向こうに広がる景色に家自体が一体化してるのが素晴らしいと思った。こういうのを考えられるような素晴らしい頭がぜひとも欲しい。			
	2-70	69P (40分)		2010/02/15 01:13:25
	石や紙や木を使った建築というものは、どこか良くも悪くも古い印象というか、レトロな雰囲気を生み出すものであると思うが、それも現代社会がコンクリートで作られているからなのだろうな。 確かに素材を生かした建築というものは、それだけで味があるし美しいものであるが、それだけで			

#30 ☆☆☆	社会を構築することはできない。というかそもそも、コンクリートに頼るのも悪くないんじゃないと思うけど。			
	全部	209P (180分)		2010/02/14 10:23:37
hana ☆☆☆☆	独創的で挑戦的な建築を生み出し続ける隈氏の考え方や仕事ぶりの様子がよくわかり、とても興味深かった。とくに、プロジェクトの推進の仕方や人との関わり方など、大きな仕事をやり遂げる上での身の振るまい方がとても参考になった。 例えば、柔軟性だ。 テレビでインテリアデザイナーの方をとりあげた番組を見たことがある。本人が考え抜いて提出した、私からしたらすてきだと思える案にクライアントが文句をつけていた。しかし、そこで彼が主張を押し通しきらずに改めて考え直した案は、本当にもっとすてきなものとなっていた。いいものって、こうつくられていくんだなあと感じたのを覚えている。厳しい時間制限の中でも、自分の主張を、周りの意見を取り入れて、妥協せずに練りに練る。隈さんの場合にも、重なる部分があると感じた。 サントリー美術館やウォーターランチは見たことがあるのだが、こうして彼の思想を知った上で、もう一度見て感じてみたいと思いました。			
	全部	208P (200分)	175-193ページ	2010/02/13 07:31:23
名無し ☆☆☆	言ってることは納得するところもあるし興味深いとは思ったけど、理想論な気がしました。でも、建築家が理想持たなくなったら終わりだな。 そういう意味でかなり刺激になる本。			
	1-70	70P (80分)		2010/02/04 03:40:29
trick ☆☆☆☆☆	六本木ギャラリー・間にて隈研吾展があったのでそれつながりで。 コンクリートは強固に見えて不透明で内部が見えないゆえに脆い。 この本の説得力がありすぎてそれ以降しばらくのデザイン系授業での思考に支障をきたしました。誰でも一度は通る道だね？コンクリートは敵！自動車は敵!! そうも言ってもらえないのが現実の辛いところです			
	ぜんぶ	208P (160分)	ページ忘れたけど石材屋さんの話	2010/02/01 01:49:57
Caporal ☆☆☆	表象と存在の分裂した20世紀にふさわしいコンクリートという言葉にひたすらなるほどと唸った。 自然と人工の線引きではなく、存在の調和が大事なのだという隈研吾の考えはとても大事だと思うが、僕はむき出しコンクリートのぱりぱりスティック感も好きなので、産業廃棄物としてのデメリットがなければコンクリート建築もすばらしいものであると思う。住んだら飽きそうだけど笑			
	P1-70	70P (30分)	序章	2010/01/19 16:46:17
だいすけもん ☆☆☆☆	個人的には、8章の和紙をつかった建築についての部分が興味深かった。和紙の爆弾でwww まあ、気になった素材の章をみればいいんじゃないかと。			
	1-16,116-141,176-193,195-209	75P (100分)	38-193	2010/01/19 11:44:24
ソロコフ ☆☆☆☆☆	建築家の言うことはなんか良い。西欧的な二項対立の考え方と東洋的な考え方、自然と人工など、建築におけるさまざまな対立概念がある。隈研吾はその間に行く、というかそれを乗り越えようとしている。それが関係性というものであるのであろう。日本の古い芸術や建築への見方が変わった。 この本を読んでから建築学科の友達と隈研吾について話をした。自分みたいなこの本のことしか知らない素人と、建築をかじっている人は少し視点が違うのだなあと思った。			
	全部	208P (180分)		2009/12/22 12:43:01

ねりな ☆☆☆☆	建築家は既にたくさんの制約の下で戦っているのに、さらに自然という制約を自分に課している点が、とてもタフだと思う。 歌川広重の『大はしあたけの夕立』という絵が気に入りました。思わぬ出会いというか、収穫でした。			
	2-44,88-141,196-213	115P (100分)		2009/11/19 10:40:06
日吉本町四丁目南 ☆☆☆☆	隈さんの主観で、自身の率直な意見が素直に書かれていたので、とても読みやすかったです。私も2章を読んで、コンクリートで埋められている現代の建築の見方を変えてみれば良いと思いました。			
	1～84	84P (60分)	46～	2009/11/05 00:17:19
リリー・アリゾナ ☆☆☆☆☆	自然素材は欠点だらけであるが、それを苦勞を惜しまず様々なアイデアを用いて建築に取り入れていく隅研吾の建築家としての姿に感銘を受けた。確かに最近の建築はコンクリート一辺倒で本来建築が持っていた親しみのようなものがなくなりつつある。 建築には能率性や耐久性のほかにも大事にしないといけない要素があるということを感じた。			
	全部	208P (180分)		2009/10/20 11:44:08
march ☆☆☆☆	最初と最後だけ読めば、なんとなく著者の主張がわかった。内容が題名どおりの本だった。ものづくりをする人なら一回は読んでおきたいと思った。最後のあとがきですごくいいことがかいてある。			
	1-16,195-213	35P (15分)	211-213	2009/10/20 10:03:22
puzdog ☆☆☆☆☆	自然な建築とは自然物でできた建築のことではない。読めばわかる。建築だけでなく社会工学（時空間デザイン）にも通じるところがある本。			
	1章～3章、終章	100P (100分)		2009/10/14 23:52:08
りょへ ☆☆☆☆☆	今波に乗っている、というか本当に素晴らしいと思う建築家のひとり、それが隈研吾だと思う。最近リニューアルした根津美術館も建物自体が彼の創作物である。近代の美術、芸術、建築を勉強しようと思ったらまず間違いなくこの人が姿を現す。 この本は、素晴らしいインスピレーションを与えてくれる、そんな本である。			
	1-130	130P (15分)	わからん。	2009/10/14 00:20:14

[TOP](#) ^



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

奇跡のリンゴ

著者名	石川拓治	発行年	2008年
出版社名	幻冬舎	ページ数	192ページ
値段	1,300円	ISBN	978-4344015449
コメント	変わりものの困りもん。津軽弁でカマドケシと呼ばれるそうな。そのカマドケシさんが、変わりもんであるがゆえに成し遂げてしまった、とんでもミラクル無農薬リンゴ。徹底的に現場主義、リンゴの木から一歩も離れずに語られる体験談がすがすがしい。なるほど、生態系を殺すことから農業って始まるんだね、と納得。九年ぶりに白い花を咲かせたりんご園。木村さんと一緒にお花見をどうぞ。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ぶるー ☆☆☆☆☆	最初だけちらっと読んで終わりにしようと思ったんだけど、読み始めたらどんどん惹き込まれてしまって、結局最後まで読むことに・・・。 もっと固い怖いおじさんの話かと思ったら、明るくて軽い感じの木村さんのキャラにどんどん惹かれていきました。 分野は違っても、「何かを突き詰めていく」ってことで自分と共通している部分がある気がして、自分も頑張らなきゃなって。 これから研究で行き詰った時に読みたい本です。			
	全部	192P (120分)	全部	2010/02/13 10:41:46
jessy ☆☆☆	読みやすい本。諦めなければ夢は叶うんだな、根気強さが勝つんだなって教えられる本。でも最初の方にだいたいこの本の内容がまとめてあるので中盤にさしかかってきたら読んでのつまらなくなってきました。終盤で無農薬栽培に成功したキーポイントが出てくるのでそこからは面白かったですが。 それにしても、表紙のあの笑顔だけで、気楽な気持ちになれる。 しわのあるあの笑顔は、大女優やイケメンの笑顔より断然勝ってる。			
	全部	192P (150分)		2009/12/22 15:58:24
ぷりぷり ☆☆☆☆☆	絶対に不可能と言われ続けていた現実を覆すという偉業を成し遂げた農家木村さんの壮絶な物語。表紙だけ見たら歯の抜け落ちたどちらかと言えばオーラのない木村さんですが農薬も肥料も一切使わずにリンゴを育てるという偉業を成し遂げたすごい人です。(笑)			
	1-191	191P (100分)		2009/11/30 16:11:18

日吉本町四丁目南 ☆☆☆☆	まず、いつも食べているリンゴは、そんなにも農業がかかって作られていたのかと思いました。そんな中で農業の使用を減らし続けて、うまく行っていた木村さんが、農業をゼロにした瞬間地獄に落ちてしまった。そこからは壮絶です。 最初は、無農業のリンゴが成功したなら、どこの農家も真似をしてそうすればいいと思いました。が、そこまで強いリンゴの木を作るのには、そんな長い年月が必要なのかと思いました。 丁寧語とそうでない言葉が混ざる木村さんの独特な話し方にも魅かれます。			2009/11/17 01:22:13
	全部	192P (180分)		
トム ☆☆☆☆	農家に生まれ、小さいときから農業一筋・・・かと思いきや、小さい頃は、算数と理科が得意で、機械いじりが好きだったというのは意外。 そんな木村さんが、青森に戻り、誰も成し遂げたことのない「リンゴの無農業栽培」に挑む様子は、壮絶で、まるでドラマのようでした。 人が自然の中で生きるとはどういうことかを教えられた気がします。 是非、みなさんに読んでもらいたいです。			2009/11/03 23:53:04
	全部	192P (200分)		
blue ☆☆☆☆	木村さんの人柄・生き方に脱帽しました。また、支えていた家族も相当すごいとただただ思うばかり。多くの人が読んでくれたら謙虚な人間が増えるかもしれませんね(笑)			2009/11/01 13:10:29
	全部	207P (120分)	特になし	
フィクサー ☆☆☆☆	無農業でリンゴをつくらうとすることは、僕たちが思うよりもはるかに、比べ物にならないほどに困難で、しかも自分だけが苦労するのではなく、家族や周囲の人々にも多大な迷惑をかけてしまう。でも木村さんは何年も何年もその難題に挑んだ。 木村さんは歯がなく、それに関して木村さんは「私はリンゴの葉と自分の歯を引き替えにしたのさ」と冗談を交えて（おそらく）表紙の笑顔をしながら話す。p21とp146にこの木村さんのセリフが出てくる。p21の時、「しょーもないことを言う人だな。」くらいにしか思わなかった。でもp146の時には、同じ言葉でも深みが全く違っていた。			2009/10/28 00:19:19
	全部	192P (200分)	p43、p44、p64、p65	
ソロコフ ☆☆☆☆	自然の複雑さに驚かされる。そのような自然に真正面からぶつかっていく姿はカッコいい。木村さんのように一つのことにのめりこむ勇氣はすごいと思う。			2009/10/27 22:40:37
	全部	192P (210分)	123-127ページ	
M I A ! ☆☆☆☆	温かく包み込んでくれるような木村さんの雰囲気が好きです。 そんな木村さんの無農業リンゴ栽培への挑戦には読んでいる私も応援したい気持ちになってきます。			2009/10/21 00:34:04
	1-80	80P (60分)		
くま ☆☆☆☆	これは読みやすいです。ページ数の割りに文字が少ないです。 不可能と思われてきた無農業りんごに挑戦！！ もう駄目だ……、首を吊ろうと山に登る！！ しかし、その山の中である方法に気づく！！			



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

なぜ君は絶望と闘えたのかー本村洋の3300日

著者名	門田隆将	発行年	2008年
出版社名	新潮社	ページ数	237ページ
値段	1,300円	ISBN	978-4104605026
コメント	電車のなかで読まないで。たぶん、涙が止まらなくなるから。 光市母子殺害事件。なぜに自分の家族が？突然に叩き落とされた奈落の底から、どんな光を頼りに青年は自らの力で未来を開いていったのか。それがいつしか日本の司法制度を変える大きなうねりとなってゆくまで。 一人称ではなく、情に流されない観察者の筆致で、しっかりとあとづけられた、たったひとりの、けれど重い足跡です。静かな熱さに吸い寄せられて、一晩で一氣に読みました。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
@ ☆☆☆☆☆	テスト中だったにもかかわらず、一氣に全部読んでしまいました。 この事件については、一応知っていました。初期～中期は小さすぎてあまり覚えてないけれども、F側に大きな死刑反対の弁護士軍団ができて、「ドラえもん」などの意味不明の主張を شدした頃は本気であきれたのを覚えています。私の家族内でも、あの弁護士軍団が、死刑廃止の主張を通したいがためだけに、この事件を利用しているのでは、とそんな話題が上ったくらいでした。実際どうかはこの本では触れられていませんでしたが…。 日本の裁判制度に問題が多いとか、その他感情論は、この本を他に読んだ人が十分に語ってくれているし、読めばわかると思うし、是非読んで感じてほしいので、私からは、言いたいことがたくさんある気がするけれども、何も言うことはありません。(ただ、遺影を持ちこませないのはひどすぎる！) ただ、昔から私は死刑制度は必要なものだと思います。その思いは変わりません。			
	全部	237P (90分)	上司の言葉	2010/02/14 13:21:16
黒鳥 ☆☆☆☆☆	私の二つ目の5つ星です。 読んでほしい。そして考えてほしい。そう強く思いました。 ある日、家に帰ると机の上にこの本がありました。「この本を読んでみてください。人間を知ることが出来ます」という置手紙とともに。 父から私へ。 私もこの本をみんなに繋ぎたい。 その思いを込めて5つ星を。			
	6-252	187P (180分)	破り捨てられた辞表「死刑」との格闘	2010/02/13 15:54:27

ねりな ☆☆☆☆☆	自分はこの本を読む前は漠然と死刑には反対でした。なのでこの筆者の話を懐疑的に読んでしまいました。そして読み終わった今、やはりまだ私は死刑には反対です。 犯人を死刑にする根拠・論理が、 1. 明確である。なので死刑に賛成。 2. 明確ではない。だけど賛成。 3. 明確ではない。だから反対。 私は3番です。しかし、今後1にも2にも変わりうると思います。 本当に考えさせられる本でした。		
	6-27,62-252	213P (200分)	2010/01/27 23:58:56

まじ ☆☆☆☆☆	読んでいて何度も涙腺が熱くなりました。でもこの本の本当の良さは悲劇に立ち向かう木村洋さんの姿に涙する、そんなところではありませんでした。 この本を読んでまず裁判について深く考えさせられました。 木村さんの「裁判は加害者に刑罰を与えるためだけの場ではなく、我々被害者の被害回復及び被害から立ち直り生きていくきっかけの場でもある。」という言葉が心に響いた。これこそが本当の裁判の目的だと思う。 また、以前の事件と単純に照らし合わせて殺害した人数や加害者の境遇で判決を下そうとする日本の裁判は間違っている。思考力をストップしているような裁判官なら、コンピュータの方がずっと性能がいいだろう！！ 死刑制度についても深く考えさせられましたが、とにかく言えることは死刑制度があることは確かに危険なことではあるが、死刑制度がないということはもっと恐いことであり、死刑という判決を通じて加害者にも大きな変化をもたらしてくれることを考えると死刑制度は必要だと思います。 このコメントを読んだだけではよく分からないと思いますが、本を読んでもらえれば分かるはずだし、みなさんに考えてもらいたいことがたくさん詰まっています。ぜひ読んでください。		
	全部	257P (240分)	2010/01/05 19:14:40

くま ☆☆☆☆☆	確かに、電車の中では読まないほうが良いと思います。 「殺めた命に対して、命を持って償うのは当たり前のこと」 今回はこの文が印象に残りました。 死刑執行人サンソンのところで死刑について書いたけれども、この本は被害者遺族の視点から司法、とりわけ死刑に関して考えることができる本です。 本村さんの苦しみや悲しみが伝わってきましたし、彼の行動によって法が動きました。 読んでみることをお勧めします。		
	すべて	237P (150分)	p 235後半の死刑判決出たところ 2009/12/15 21:26:14

アメフト3号 ☆☆☆☆☆	忘れかけていたこの残酷な事件。 過去の判決例を持ち出して妥当な判決を下そうとする 日本の裁判所との本村さんと検察の葛藤が描かれている。 死刑判決を受けないと殺人者は本当の意味で改心出来ないが、 判決を受けた受刑者はもう死刑を待つだけ。 死刑と無期懲役は全然違うもの。無期刑では改心せず釈放され、 死刑判決を受けると改心する。 死刑制度自体についても考えさせられる1冊です。		
	全部	237P (120分)	すべて 2009/10/28 00:25:52

	読み進める度に、当時のこの事件のメディアでの報道が思い出されました。本村さんの会見も、Fが供述を一変させたことも、安田、足立弁護士が傷害致死であると主張した会見も、どれもニュースで見えていました。当時の自分はあまりニュースを見る年頃ではなかったはずなのに、です。それだけこれは大変な事件だったし、特に少年犯罪への法律に大きな影響を与えた事件だった、つまり本村さんがそれだけ懸命に闘っていたということです。読み終わった日の次の日の朝もニュースでこ		
--	---	--	--

フィクサー
☆☆☆☆☆

の事件に関することが話題に上っていました、事件から10年たってもいまだにです。
登場する人物の言葉に、正義感に涙させられました。彼らに本村さんがどれだけ支えられたのか。
本村さんの強さ、成長、また、本村さんが叶えることのできなかつた夢、出せなかつた手紙、涙なしには読めません。
そして、死刑についても考えさせられました。Fが自分の罪の
深さに気がついたのか、本当に変わったのか、最後の面会のシーンを見ても自分にはわかりません
でした。死刑は被告が自分の罪に気が付き深く反省した上で行わなければいけないと思います。宮
崎勤のような死刑だと、意味があつたのか疑問が残ります。Fはどうなのでしょう。意味のある形
で死刑を受けることを願います。

全部	237P (300分)	112-143ページ	2009/10/11 04:31:49
----	-------------	------------	---------------------

[TOP](#)へ



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

反骨心

著者名	清原和博	発行年	2009年
出版社名	角川oneテーマ21	ページ数	188ページ
値段	740円	ISBN	4-047102071
コメント	男は踏まれて強くなる。 「いっちょ、ガツンと言わしたる」。少年時代そのままの闘争心に全身を燃え立たせて彼はバッテリーボックスに立ち続けた。ドラフトに敗れても、死球の嵐に見舞われても、戦力外通告を受けても。ジャイアンツというチームがいかに特殊なポジションにあるかも、よく分かります。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
NIKI ☆☆☆☆	野球はよく知らないけど、清原という名前はよく知っている。野球の世界って難しいんだなって思った。 憎しみとか、感謝とか、挫折とか本当に色んなことがあって、でも周りの人に支えられて自分の生き方をしてきた清原という人の人生に心打たれた。なんかかっていいと思ってしまった！			
	3-114	112P (60分)		2010/02/15 01:07:48
Caporal ☆☆☆	男キヨさんの自伝は、予想通りふざけた内容ばかりだったと私は思ってしまった笑 でもあまりにくだらなく一回転してすっきりした面白さを感じたのでこの評価にしました。ピアスつけた理由とか、マジウケルww			
	一章	39P (20分)	特になし	2010/02/14 03:08:48
名無し ☆☆	特に清原にもジャイアンツにもなんの思い入れもないけど… イチローが好きだから他の野球選手のも読んでみようかなと。 読んでみた結果、清原そんな好きじゃないなと。 なんか…もともと興味なかったのに読んじゃったからかもしれないけど、「あ、そう」ってなった。			
	3-115	115P (80分)		2010/02/04 04:00:19
TD ☆☆☆☆	男でこれを読んで震えないやつは嘘だ。 かっこよすぎる、清原和博。 自業自得の面もあるとはいえ、一度は干されかけたプロ野球に何度も挑戦し続ける姿に、思わず自分を重ねずにはられない。感動の一冊だった。			

	188	188P (80分)	序章	2010/02/01 22:31:07
リリー・アリソナ ☆☆☆	数々の挫折を経験し、今まで自分の才能におぼれ、傲慢だった清原が感謝の気持ちを忘れないという素晴らしい心に目覚めたというエピソードはとても感動的であるし、いま挫折している人達に勇気を与えるものだと思う。ただ、根性論に終始しているというか、自分の価値観と相いれないものがあり、加えて自分は野球にあまり明るくないので、あまり共感することができなかった。			
	3-65	63P (60分)		2010/01/29 23:12:07
日吉本町四丁目南 ☆☆☆	ドラフトの裏切りや、戦力外通告・解雇の裏側といった、関係者しか知らないような残酷な場面が結構書かれていたが、残念ながら、その残酷っぷりが読んでいてまいち伝わってこなかった。私は、巨人ファンだが、清原本人の言葉とは違って、やっぱり西武に留まっていたほうが良かったんじゃないかと思う。20年前とは違い、今はパ・リーグも人気が出てきたし、清原も言っている通りパ・リーグの野球の方が面白い。そんな中に巨人にめっぽう強い清原がいたら、とても面白かったと思う。まあ歴史は変えられないが。			
	全部	188P (180分)	4 章	2009/12/22 01:23:58
まじ ☆☆☆	すらすら読める。これを読めば清原選手の野球人生の浮き沈みを知ることができ、清原選手の単純すぎるくらい真っ直ぐな性格がよくわかるだろう。清原選手の自分に正直に、男の道を貫く生き方はありのまま丁寧に書かれている。しかし内容は薄い。			
	全部	188P (150分)		2009/12/08 08:56:35
PO ☆☆	読みやすいのですが僕清原が嫌いなのを忘れてました。 ということで☆2つ。			
	全部	188P (120分)		2009/12/07 23:47:09
ソロコフ ☆☆	昔から野球は大好きだったので清原のドラフトの話とか甲子園の話とかは知っていたが、本人の目線から見れるので清原はこう見ていたのかと清原の印象がけっこう変わった。 ただ挫折を乗り越えるたびに自分が果たした栄光がちらちら出てきてなんだか自慢されているような気分にもなった。清原の話であるが桑田のすごさも印象に残った。			
	全部	188P (90分)		2009/11/26 18:45:11
つきもち ☆☆☆☆	清原といえば「番長」というイメージしかなかったのに、この本を読んでそのイメージがガラッと変わりました。 なぜあんなにごついピアスをしたのか？なぜデットボールをよけないのか？こういった事ががすべてしっかり考えがあって行ったということに少し感動しました・・・			
	ぜんぶ	205P (400分)	ぜんぶ	2009/11/17 12:42:37
びよ彦 ☆☆☆☆	清原といえば「やたら怪我するガラの悪いおっさん」くらいのイメージしかなかったし、この本にも大して期待はしてなかった。しかし文章は意外とわかりやすく、度重なる怪我に挫折を克服していく姿は漢を感じさせる。不器用で愚直、でもやるときはやる。そんな人柄だからこそ長年ファンに愛されてきたのだろう。			
	全部	203P (90分)	51-54	2009/11/16 07:50:54
肉 ☆☆☆☆	とにかく読みやすい！ 清原をアスリートというよりヤクザのような奴だと思っていたが、清原はアツい奴だ！トップであり続けたが故に今まで経験しなかった挫折を初めて経験し、それを乗り越えた清原に好感を持てた。			

	ただ、ドラフト発表時の友達の反応は引いた...			
	3-7、116-130、170-205	56P (40分)		2009/11/14 10:51:45
フィクサー ☆☆☆☆	「清原の野球解説は意外と分かりやすい」という話を聞いたことがあった。不思議に思っていた。清原は周りのことを考えないで好き勝手やっているチンピラみたいな奴、そんな悪いイメージが僕の中にはあった。この本を読んで、なぜ清原の解説が分かりやすいと言われるのかが分かった気がする。 立ち読みポイントの44ページにある中村監督の言葉を、中学校時代の自分に伝えられたらなと思った。			
	全部	188P (120分)	44ページ	2009/11/05 23:37:27
gpx ☆☆☆☆	読み始めは、清原の挫折ばかり書かれていてうっとうしかった。 ただ、読んでいるうちに清原の苦しい状況というのが伝わってきて、そのような中でももがいている姿がさすがだなと思った。 無冠で、最多死球、最多三振という意味不明な成績が納得できた。			
	全部	188P (180分)	159-160	2009/11/04 01:15:04
あ、あめふと 2号 ☆☆☆☆☆	今まで清原という人をそんなによく知らなかったし別に何も感じていなかったが、同じスポーツをやっている身として怪我を繰り返しファンに罵倒されたりしながらも踏みとどまる清原にとても尊敬の念を抱いた。 ところどころに出てくる清原の言い訳的な部分も人間らしくて好きだ。			
	1-188	188P (180分)		2009/10/28 09:13:36
だいすけもん ☆☆☆	自伝なので、非常に読みやすい。ただ、ひねりとかは一切ないので、面白くはない。清原さんの男を感じたいひとにはおすすめ			
	1-205	188P (120分)	195-205	2009/10/26 21:51:33
アメフト4号 ☆☆☆☆☆	トップアスリートの怪我のリハビリと挫折。スポーツに怪我はつきもの。本を読んでいるときに怪我をしている自分は同じ境遇でも心の強い清原に元気をもらえた。			
	全部	188P (120分)		2009/10/25 15:32:43
アメフト3号 ☆☆☆☆☆	清原の高校時代から引退するまでが本人の手によって書かれていて、スランプの時の清原の気持ちや、恩師の言葉、清原が大事にしていたことがよくわかった。 のめりこむようにして一気に読んでしまいました。			
	全部	188P (90分)	特になし	2009/10/19 23:06:09
jessy ☆☆☆☆	さすがに野球選手は文学に関して素人であろうから、非常に読みやすい文面。私はプロ野球が結構好きで球状にも足を運んだりするので(ちなみに阪神ファン、東京のみなさまごめんなさい^^)野球選手の裏側を見てちょっと満足ww成功の裏には必ず挫折があるのね。			
	全て	188P (150分)		2009/10/19 02:03:25